法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-13

宮古語大神方言　動詞の文法化 ： 存在動詞を中心に

金田，章宏

(出版者 / Publisher)
法政大学沖縄文化研究所
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
琉球の方言
(巻 / Volume)
44
(開始ページ / Start Page)
69
(終了ページ / End Page)
90
(発行年 / Year)
2020-03-31
(URL)
https://doi.org/10.15002/00024288

宮古語大神方言　動詞の文法化
―存在動詞を中心に―

金　田　章　宏

はじめに

本稿では宮古語大神方言の動詞の文法化について、存在動詞を中心に整理を試みる。大神方言は音声・音韻的な特徴が注目される[1]が、文法的にも興味深い現象が少なからず観察される。ここではそのうちの存在動詞（存在と非存在）の本動詞と補助動詞の意味用法を確認する。また、アスペクト表現に関連する補助動詞「おく」についても概観し、「おく」と同様に本動詞と補助動詞で語形の異なる「する」についてもその実態を確認する。

概要は以下のとおりである。

○存在、非存在にかかわる動詞

形式上は、uɪ「いる」の否定形がuraN、aɪ「ある」の否定形がaraNであるが、意味的にまで対応しているわけではない。意味的にaɪの否定に対応するのはne:N「ない」である。また、mi:Nは動詞mi:ɪ「見る」の否定形であるが、意味的にはuraN以上に、uɪの否定に使用される。また、uɪとaɪには強調辞tuのない文にあらわれるum（過去形はutam）、am（過去形はatam）がある。

これらはまた、補助動詞やコピュラとしても使用される。

uɪ　　生きものの存在の動詞、アスペクト継続相の補助動詞
aɪ　　ものの存在の動詞、アスペクト結果痕跡相の補助動詞
uraN　生きものの非存在の動詞、否定（未実現）の補助動詞
mi:N　動詞「見ない」、生きものの非存在の動詞、否定（未経験）の補助動詞
ne:N　ものの非存在の動詞、形容詞否定の補助動詞、動詞完了の補助動詞
araN　否定の感動詞（応答詞）、否定のコピュラ

○「おく」

共通語には動詞「置く」に補助動詞「～シテおく」の用法があって、活用も基本的に共通するが、大神方言では本動詞と補助動詞で、否定形もふくめて語形が異なる。

[1] かりまた（1993）、Pellard（2009）

uskɪ　動詞「置く」
ukɪ　アスペクトにかかわる補助動詞（準備、結果痕跡など）

○「する」
共通語には動詞「（計算を）する」のほかにサ変動詞（計算する、愛する）などの「～する」があって、活用もおおよそ共通するが、大神方言では本動詞と補助動詞で、否定形もふくめて語形が異なる。

asɪ　動詞「する」、複合格の要素？
sɪ　動詞・形容詞の分析形に使用される補助動詞

共通語訳については、強調辞tuの意味を訳のほうではゾで対応させる。方言の動詞分析形の前要素に強調辞がついて、訳のほうが分析的にならないばあいは、訳の動詞のあとにゾをつける（uri]=tu uɪ.いるゾ。）が、共通語の終助辞「ぞ」とは無関係である。また、用例は終止形を中心とする。母音の無声化は「!」を使用して「k!isi:taːɪ.来ていた。」のようにしめす。破裂後に両唇摩擦をともない拍を形成するkをkF（kFfi作り）で、kといわゆる舌先母音の組み合わせkɪが無声化したものをkS（umakS火）でしめす。アクセントとイントネーションを区別せずに、下降は]で、上昇は[でしめす。
方言のカナ表記については、いわゆる舌先音のɪやkɪは「い」「き」のようにい段のひらがなで示す。母音の無声化は「!」を使用し、「k!isi:taːɪ.キ!シーターい。来ていた。」のようにしめす。成節子音は「ukam ウカム 大神」「sɪn しヌ 死ぬ」のように小さなゴシック文字でしめす。

1．uɪ

動詞uɪは生きものの存在をあらわす。共通語の「いる」に対応する。動詞uɪにはさらに補助動詞のuɪ（いる）、aɪ（ある）、ukɪ（おく）、sɪ（する）などが組み合わさる。語形変化は補助動詞のがわがになう。
補助動詞uɪは動詞のアスペクト形式（継続相）を構成する要素となる。
uɪの終止形には、動詞、補助動詞ともに、強調辞tuをふくむ文以外でのみあらわれるumがあるが、同じような条件でuɪも使用されることがある。補助動詞として使用されたばあいのみ、動詞語形と融合することがある。

1．1　動詞uɪ

uɪには単独での存在動詞としての用法がある。そのほかに、いくつかの補助動詞と組み

合わさることがある。

１．１．１　動詞uı

非過去形um/過去形utamは強調辞tuのない文の述語に使用される。

kare:] ata=mai um.カレー アタマイ ウム。あの人はあしたもいるよ。
aN=mai] utam.アンマイ ウタム。私も（そこに）いた。

文中のどこかに強調辞tuをふくむ文の述語は連体形と同音のuı（非過去）、utaı〜uta:ı（過去）となる。動作動詞（numi=tu飲んだ。）や変化動詞（tukumi=tu終わった。）と異なり、uriやuri=tuだけでは過去をあらわせない。

taukara:=ka=tu] uı.タウカラーカトゥ ウい。だれかがゾいる。
katam=[mai] paı=mai=[tu] uı.カタムマイ パいマイトゥ ウい。蚊もハエもゾいる。
vva] ju[pe:] i[ta=N=tu uta]:ı? ＞ [ja:=N=tu] uta:ı.ッヴァ ユペー イタントゥ ウターい？＞ヤーントゥ ウターい。あなたゆうべどこにゾいた？ ＞ 家にゾいたよ。

命令形や願望形を述語とする文には強調辞tuがあらわれない。

u[ma=Nkai=ja] ku:[ta] u[ma=N] uri.ウマンカイヤ クータ ウマン ウリ。ここには来ないでそこにいろ。
mme[pi] unakai u[te:.ンメピ ウナカイ ウテー。もっと長くいてほしいな。

１．１．２　動詞uı＋補助動詞uı

存在動詞uıはさまざまな補助動詞と組み合わさる。

動詞のアスペクト形式の素材となる補助動詞uıは、存在動詞uıとも組み合わさる。これまでのところ、動詞uıのみのばあいと動詞uı＋補助動詞uıのばあいとで、意味上の大きな違いはみられないが、話者は単独のuıよりも後者の組み合わせ語形（uri uı）が融合したuri:ıのほうがていねいな感じだという。

動詞に強調辞tuがついたばあいやとりたて助辞jaがついて融合したばあいは、補助動詞uıは融合をおこさない。

uri]=tu uı.ウリトゥ ウい。いるゾ。
mme[pi] unakai u[ri] uı[te:.ンメピ ウナカイ ウリ ウいテー。もっと長くいてほしいな。

aN=mai] uri=tu utaɪ. アンマイ ウリトゥ ウタい。私もいたゾ。

動詞に強調辞がつかないばあいは、中止形が短母音iでおわるため、補助動詞uɪと融合して長母音化することが多い。

kare:] uma=N=tu ikS=[mai] uri:ɪ. カレー ウマントゥ イき!マイ ウリーい。あの人はここにゾいつもいる。＜uri uɪ
a[ka=tu] uri:taɪ. アカトゥ ウリータい。私がゾいた。＜uri utaɪ
mme[pi] unakai uri:ri. ンメピ ウナカイ ウリーリ。もっと長くいろ。＜uri uri
mme[pi] unakai u[ri]:[te:. ンメピ ウナカイ ウリーテー。もっと長くいてほしいな。

１．１．３　動詞uɪ＋補助動詞aɪ

動詞uɪと補助動詞aɪとの組み合わせは、なんらかの生きものが存在した痕跡があり、その痕跡をもとにした推論をあらわす。

uri=tu aɪ] pakɪ. ウリトゥ アい パき。いてゾあると思う。だれかが。

強調辞tuとaɪが融合して、uritaːɪになることが多い。

uri]=taːɪ. ウリターい。いてゾある。＜uri]=tu aɪ
uri=taːɪ] pakɪ. ウリターい パき。いてゾあると思う。

強調辞tuが動詞につかないばあいは融合してureːɪとなる。

taukara:=mai=tu] ureːɪ. タウカラーマイトゥ ウレーい。だれかもゾいたようだ。二つのコップを見て。＜uri aɪ
ureːɪ] pakɪ. ウレーい パき。いたはずだ。いたに違いない。だれかが。

１．１．４　動詞uɪ＋補助動詞ukɪ/ukS

動詞uɪと補助動詞ukɪ/ukS（おく）との組み合わせは、なんらかの生きものが存在した痕跡があり、その痕跡をもとにした推論をあらわす。補助動詞aɪとの組み合わせがあらわす痕跡の意味との違いはないようだが、複数の話者によれば、こちらのほうがより大神方言らしいという。分析的にも使用されるが融合することが多い。

uri] ukɪ. ウリ ウき。いたようだ。だれかが。コップなどを見て。 = ureːɪ＜ uri aɪ
taukara:=ka=tu uri:]kS. タウカラーカトゥ ウリーき!。だれかがゾいたようだ。コップなどを見て。＜ uri ukS

１．１．５　動詞uɪ＋補助動詞sɪ

補助動詞sɪとの組み合わせは、のべたての述語としては、動詞単独よりむしろ使用が一般的である。動詞と補助動詞sɪの組み合わせと動詞のみとのばあいの、一般的な意味用法の違いについては稿をあらためる。

na[ukara:=nu=tu uɪ]? ＞[N: uɪ]=tu sɪ. ナウカラーヌトゥ ウい？＞ンー ウいトゥ し。なにかがゾいるの？＞うん、いるゾ。
aN=mai] uɪ=tu staɪ. アンマイ ウいトゥ ス!タい。私もいたゾ。そのときは。

１．２　補助動詞uɪ

１．２．１　動詞＋補助動詞uɪ

補助動詞uɪは動詞中止形とともに継続相アスペクト形式を構成する要素となる。この組み合わせのあらわす文法的意味の詳細については稿をあらためる。

動詞が連母音ai、uiやei、長母音i:でおわるばあいはuɪ/umとの融合をおこさないが、短母音iでおわるばあいは融合をおこしやすい。

um/utamは強調辞tuのないのべたて文の述語にあらわれる。

vva masakaN fai] um? ッヴァ マサカン ファイ ウム？　あなた、ちゃんと食べてる？
narapi] um? ナラピ ウム？　ならべてる？

um/utamの融合形も同様に強調辞tuのない文の述語にあらわれる。

u[ma=N] ari:m. ウマン アリーム。ここにあるよ。＜ ari um
mainikɪ numi:]m? ＞ [numi]=tu uɪ. マイニき ヌミーム？＞ヌミトゥ ウい。毎日飲んでる？＞飲んでゾいる。
vva masakaN kFfi:]m? ッヴァ マサカン ク!フィーム？　あなたちゃんと作ってる？

文のどこかに強調辞tuをふくむ文で、動詞が連母音ai、uiやei、長母音i:でおわるばあいや動詞に強調辞がついたばあいは、融合せずにuɪ/utaɪになる。

pɪri]=tu uɪ. ぴリトゥ ウい。座ってゾいる。
kɪnu: piNna:]piNna: a[si=tu utaɪ. きヌー ピンナーピンナー アシトゥ ウタい。きのうは変にしてゾいた。食べ過ぎて体調が悪かった。
aN=[mai] aNsi=[tu] u[mui] utaɪ. アンマイ アンシトゥ ウムイ ウタい。私もそうゾ思っていた。
kɪ[nu:] ma:ta=[tu pi:] uta:ɪ. きヌー マータトゥ ピー ウターい。きのうはとてもゾ酔っていた。

動詞以外のどこかに強調辞tuをふくむ文で、動詞が短母音iでおわるばあいは、動詞とuɪ/utaɪが融合するのが基本的である。

kanu pS]ta: ja[tu:=tu] aki:ɪ. カヌ ぴ!ター ヤトゥートゥ アキーい。あの人は戸をゾ開けている。＜aki uɪ
u[pu]ami=N=tu [na]ri:ɪ. ウプアミントゥ ナリーい。大雨にゾなっている。＜nari uɪ
kɪnu:] kari=mai=tu] k!isi:taɪ. きヌー カリマイトゥ キ!シーターい。きのうはあいつもゾ来ていた。＜k!isi utaɪ

１．２．２　動詞意志形（=tu）＋補助動詞uɪ

動詞の意志形とuɪとの組み合わせは、動作の準備中であることや、動作が起こりそうであること（開始限界直前）をあらわす。その際、意志形の語末母音は長音化する。

ffa=u=[tu] turati: uɪ. フ!ファウトゥ トゥラティー ウい。草をゾ取ろうとしている。
ske:sa]ti:=tu uɪ. ス!ケーサティートゥ ウい。走ろうとゾしている。
Nki]ti:=tu uɪ. ンキティートゥ ウい。帰ろうとゾしている。玄関で帰りかけている。
mme] ffati:=tu uɪ. ンメ フ!ファティートゥ ウい。いまにも降ろうとゾしている。雨が。
aN=mai numati:=[tu] utaɪ. アンマイ ヌマティートゥ ウタい。私も飲もうとゾしていた。

１．２．３　動詞連体非過去形＋m:ti:（=tu）＋補助動詞uɪ

動詞連体形の非過去形とm:ti:（=tu）uɪとの組み合わせは、動作や変化の継続をあらわすこともあるが、多くは開始直後にあることをあらわす。

nnama=tu] urusɪ m:ti: uɪ. ンナマトゥ ウルし ムーティー ウい。いまゾ（棚からものを）下ろしている。動作継続
kSs] m:ti:=tu uɪ. き!ス! ムーティートゥ ウい。来つつゾある。移動中。変化継続
sɪn] m:ti:=tu uɪ. しヌ ムーティートゥ ウい。死につつゾある。死にそうだ。変化継続
ske:sɪ] m:ti:=tu uɪ. ス!ケーし ムーティートゥ ウい。走りはじめてゾいる。開始直後

mti] m:ti:=tu uɪ. ムティ ムーティートゥ ウい。（潮が）満ちはじめてゾいる。開始直後
ff] m:ti:tu uɪ. フ！フ！ムティートゥ ウい。降りはじめてゾいる。降りだした。開始直後

２．aɪ

動詞aɪはものの存在をあらわす。共通語の「ある」に対応する。動詞aɪにはさらに補助動詞としてuɪ（いる）、aɪ（ある）、ukɪ（おく）、sɪ（する）が組み合わさる。語形変化は補助動詞のがわがになう。

補助動詞aɪは動詞のアスペクト形式（結果・痕跡相）を構成する要素となる。

aɪの終止形には、動詞、補助動詞ともに、強調辞tuをふくむ文以外でのみあらわれるamがあるが、同じような条件でaɪも使用されることがある。補助動詞として使用されたばあいのみ、まえの要素と融合することがある。

２．１　動詞aɪ

aɪには単独でものの存在をあらわす動詞としての用法がある。また、いくつかの補助動詞と組み合わさることがある。

２．１．１　動詞aɪ

am/atamは強調辞tuのない文の述語に使用される。

maɪ=[a] am? ＞ [pi:]maka:=tu aɪ. マいア アム？＞ピーマカートゥ アい。米はある？ ＞ 少しゾある（＝少ししかない）。
[am. アム。あった！ 発見
u[ma=N=mai] atam. ウマンマイ アタム。ここにもあった。

文中のどこかに強調辞tuをふくむ文の述語は連体形と同音のaɪ（非過去）、ataɪ（過去）となる。動作動詞や変化動詞と異なり、ariやari=tuだけでは過去をあらわせない。

u[ma=N]=tu aɪ. ウマントゥ アい。ここにゾある。
kɪnu:] uma=N=tu ataɪ. きヌー ウマントゥ アタい。きのうはここにゾあった。
kɪ[na:] uma=N=tu atassa:. きナー ウマントゥ アタッサー。きのうはここにゾあったよ。
＜ataɪ sa:

２．１．２　動詞aɪ＋補助動詞uɪ

動詞aɪと補助動詞uɪとの組み合わせはものの存在をあらわす。補助動詞の否定形はない

ようである。

補助動詞um/utamは強調辞tuのない文にあらわれる。動詞が短母音おわりのariなので、基本的に融合する。

uma=N=mai] ari:m. ウマンマイ アリーム。ここにもある。＜ari um

動詞に強調辞tuがついたときは分析的になる。

maɪ=a mme] ikkagecupunna [ari]=tu uɪ. マいア ンメ イッカゲツプンナ アリトゥ ウい。米はまだ一か月分はあるゾ。
ari=tu] utaɪ. アリトゥ ウタい。あったゾ。

動詞以外に強調辞tuがついたときには融合する。

u[ma=N=tu] ari:ɪ. ウマントゥ アリーい。ここにゾある。単独のaɪよりもやさしい感じ。＜ari uɪ
kSsa=kara=tu] umaN ari:taɪ. き!サカラトゥ ウマン アリータい。さっきからゾここにあった。＜ari utaɪ

２．１．３　動詞aɪ＋補助動詞aɪ

動詞aɪと補助動詞aɪとの組み合わせは、なんらかのものが存在した痕跡をもとにした推論をあらわす。動詞に強調辞tuがついたときには融合をおこすことが多い。

umaN=tu] are:ɪ. ウマントゥ アレーい。ここにゾあったようだ。現在の痕跡。＜ari aɪ
ari]=ta:ɪ. アリターい。あってゾある。現在の痕跡。＜ari=tu aɪ
are]:taɪ. アレータい。あったようだった。過去の痕跡。＜ari ataɪ

２．１．４　動詞aɪ＋補助動詞ukɪ

動詞aɪと補助動詞ukɪとの組み合わせは、なんらかのものが存在した痕跡があり、その痕跡をもとにした推論をあらわす。補助動詞aɪとの組み合わせとおなじ意味で使用されるが、ukɪとの組み合わせのほうがより大神方言らしい。融合することが多い。

ari] ukɪ. アリ ウき。あったようだ。= are:ɪ＜ari aɪ
naukara:=nu=tu] ari:kɪ. ナウカラーヌトゥ アリーき。なにかがゾあったようだ。＜ari ukɪ

a[ri:kS]ta₁.アリーき!タい。あったみたいだった。過去の痕跡＜ari ukSta₁

２．１．５　動詞a₁＋補助動詞s₁

動詞のみのばあいと比較して、補助動詞s₁との組み合わせのほうが、のべたての述語としてむしろ一般的である。動詞と補助動詞s₁の組み合わせと動詞のみとのばあいの、一般的な意味用法の違いについては稿をあらためる。

a₁]=tu s₁.アいトゥ し。あったゾ！ 発見
ma₁=a ari:m] na:? ＞[a₁]=tu s₁.マいア アリーム ナー？＞アいトゥ し。米はあるかい？ ＞あるゾ。
a₁]=tu sta₁.アいトゥ ス!タい。あったゾ。

２．２　補助動詞a₁

動詞と補助動詞a₁の組み合わせは、動作や変化の痕跡、完了した状態、準備のできた状態、などをあらわす。痕跡などの存在を前提にした表現であるので、これの否定形はない。

２．２．１　動詞＋補助動詞a₁

動詞の肯定中止形と組み合わさって、動作などの結果や痕跡[2]の存在をあらわす。

動詞が連母音ai、uiやei、長母音i:でおわるばあいは融合せずにa₁/amと組み合わさる。

itei] am.イテイ アム。会ったよ。あなたはもう。簡単な表現。
aka=tu] mi: a₁.アカトゥ ミー アい。私がゾ見てある。見つけてある。
u[pu:sa=tu] kai ata₁.ウプーサトゥ カイ アタい。たくさんゾ買ってあったよ。見てきて。

強調辞tuがない文では、補助動詞a₁はamおよびその融合形であらわれることが多い。

]kFfe:m.ク!フェーム。作ってある。＜kFfi am

動詞が短母音iでおわって強調辞tuがつかないばあいは補助動詞a₁と融合する。

---

[2] 痕跡の用法には補助動詞a₁のほかに補助動詞uk₁も使用される。より自然に出るのはa₁のほうであるが、より大神方言的だと意識されているのはuk₁のほうである。このことは、もとあったuk₁のうえにa₁がかぶさって使用の範囲を広げていることを示唆する。下地（2018）によれば、琉球諸語で痕跡をあらわす形式には動詞と補助動詞アル・オクの組み合わせがあって、琉球諸語全般にどちらか一方だけが痕跡の意味に使用され、相補分布しているという。この点で、大神方言ではアルのほうが優勢とはいえ、同程度に共存している点が興味深い。

a[ra:] ja[ri]jariti:=[tu] na[ra]pe:ɹ. アラー ヤリヤリティートゥ ナラペーい。私はだめにゾならべてある。＜narapi aɹ
taukara:=ka=tu aki] pere:ɹ. タウカラーカトゥ アキ ペレーい。だれかがゾ開けて（どこかに）行ってある。窓が開いているのを見て。＜peri aɹ
kɹnu=tu] taukara:=ka aɹ]ke:taɹ. きヌトゥ タウカラーカ アいケータい。きのうゾだれかが歩いてあった。畑の足跡を見て。＜aɹki ataɹ
kɹnu=tu] taukara:=ka jatu: a]ke:taɹ. きヌトゥ タウカラーカ ヤトゥー アケータい。きのうゾだれかが戸を開けてあった。＜aki ataɹ

動詞に強調辞tuがついたばあいはtuと補助動詞aɹとが融合をおこし、～taːɹとなることが多いが、ていねいな発音では分析的にもあらわれる。

mme] kati=taːɹ. ンメ カティターい。もう耕してゾある。
mme] mi:=taːɹ. ンメ ミーターい。もう見てゾある。
kFfi=tu] aɹ. ク！フィトゥ アい。作ってゾある。

動詞と補助動詞aɹの組み合わせを述語にもつ文には反実仮想の用法がある。１例目は条件節もこの組み合わせで、２例目は条件節の補助動詞がukɹである。

fai] ati[ka: sɹ]ni=taːɹ. ファイ アティカー しニターい。食べていたら死んでゾいた（はずである）。＜sɹni=tu aɹ
taro:=ka] kɺisi:[ka: fai=taːɹ. タローカ キ！シーカー ファイターい。太郎が来ていたら食べてゾいた（はずである）。＜kɺisi uka:、fai=tu aɹ

２．２．２　形容詞＋補助動詞aɹ

形容詞終止形は形容詞中止形とaɹ/am、その過去形ataɹ/atamが融合したものである。

u[ri=ka=tu] mmakaɹ. ウリカトゥ ンマカい。これがゾおいしい。＜mmaku aɹ
aNta=ka upu]mma=[ka kFf] muna: [mma]kam. アンタカ ウプンマカ ク！フ！ムナー ンマカム。うちのおばあさんが作るものはおいしい。＜mmaku am
uri=ka=tu] mmakataɹ. ウリカトゥ ンマカタい。これがゾおいしかった。＜mmaku ataɹ
mma]katam. ンマカタム。おいしかった。＜mmaku atam

３．uraN

３．１　動詞uraN

動詞uraNは人など生きものの非存在をあらわす。つぎにとりあげる動詞mi:Nもおなじく人などの非存在の意味で使用されるが、より自然に使用されるのはmi:Nのほうで、話者に使用の可否を確認すると、uraNでもいい、となる。

ata:] kari=mai] uraN.アター カリマイ ウラン。あしたはあいつもいない。予定
ka[tamma] uraN.カタンマ ウラン。蚊はいない。
un=nu] pa:=n[na] aN=mai [ura]tatam.ウンヌ パーンナ アンマイ ウラタタム。その時は私もいなかった。

一人称の意志的な用法にはurate:Nだけが使用される。

aNsi=nu] tukuma=nna [ura]te:N.アンシヌ トゥクマンナ ウラテーン。こんなところにはもういない！ 意志
ara:] ata=mai [ura]te:N/[uraN.アラー アタマイ ウラテーン／ウラン。私はあしたもいないよ。予定

３．２　補助動詞uraN

動詞継続相の否定形（～していない）に使用される補助動詞は、mi:NではなくuraNである。さまざまな動詞と補助動詞uraNとの組み合わせは、起こることが予測された出来事がまだ起こっていないこと（未実現）をあらわす。したがって、その出来事は近い未来におこりうる。否定文によくみられるように、動詞にはとりたてjaがつくのが自然で、動詞が短母音i終わりのばあいはjaが融合する。

m[mita] fai=ja] u[raN.ンミタ ファイヤ ウラン。まだ食べてはいない。
mmita] u[te:] uraN.ンミタ ウテー ウラン。まだ落ちてはいない。汚れなどが。
ffe:] uraN.フ!フェー ウラン。降ってはいない。雨はいまはまだ。
kɪnu:] appe: u]ratatam.きヌー アッペー ウラタタム。きのうは遊んではいなかった。

４．mi:N

mi:Nはmiːɴ（見る）の否定形であるが、そこから、人など生きものの非存在をあらわす意味を派生させている。

４．１　動詞「見ない」

はじめにmiːɹ（見る）の否定形mi:N/mi:tatam（見ない／見なかった）の意味を確認する。mi:N/mi:tatamは基本的な知覚認識活動のほかに、その能力（不）可能の意味に使用されることがある。

taro:=mai] mi:N.タローマイ ミーン。太郎も見ない。
kari=ka] mi: uri[pa] ara: [mi:]te:N.カリカ ミー ウリパ アラー ミーテーン。あいつが見ているから、私は見ない。
ure:] mmita munu:=pa: [mi:N.ウレー ンミタ ムヌーパー ミーン。これはまだものを見えない。乳児でまだ目が見えない。能力
ike:m:na] ma:nu [mi:]tatam.イケームーナ マーヌ ミータタム。むかしはあまり見えなかった。目が悪くて。能力

これに対して、条件（不）可能にはmiːɹ（見る）の可能動詞（の否定形）が使用される。

ffakaripa=tu] naujatum [mi:]raiN.フ!ファカリパトゥ ナウヤトゥム ミーライン。暗いからゾなにも見えない。条件

４．２　動詞「いない」

動詞mi:Nは共通語の「いない」に対応する。おなじ意味でuraN（いない）も使用されるが、mi:Nのほうがより自然に使用される。「見る」の意味では肯否の対立があったが、非存在の意味では否定形のみで、意味的にはuɹ「いる」と対立するが、形態的にこれと対応する肯定形はない。

aN[si=nu] mu[nu:] kaNkai uɹ pStu: [mi:N.アンシヌ ムヌー カンカイ ウい ぴ!トゥーミーン。そんなことを考えている人はいない。
katam=[mai] paɹ=mai [mi:N.カタムマイ パいマイ ミーン。蚊もハエもいない。
mme] as pStu=nu=tu [mi:N.ンメ アス! ぴ!トゥヌトゥ ミーン。もうする人がゾいない。
taru=mai] mi:tatam.タルマイ ミータタム。だれもいなかった。
unna] aN=mai [mi:]tata:.ウンナ アンマイ ミータター。その時は私もいなかった。～ta:は～tamの簡略形。

一人称未来の予定された非存在では、[ura]te:N/[mi:]te:N/[uraN/[mi:Nがすべて使用可能である。このとき、～N形と～te:N形の意味は中和する。しかし、三人称では～N形しか

使用できない。

ara:] ata=mai [ura]te:N/[mi:]te:N/[uraN/[mi:N.アラー アタマイ ウラテーン/ミーテーン/ウラン/ミーン。私はあしたもいない。予定
ata:] kari=mai] mi:N/uraN.アター カリマイ ミーン/ウラン。あしたはあいつもいないよ。予定

mi:Nには変化動詞としての用法があり、開始限界や終了限界をあらわす〜kataのかたちで、変化の終了限界＝非存在への開始限界に近づくことをあらわす。また、消失をあらわす主体変化動詞との組み合わせで、変化後の消失をあらわす。

mi:N] kata.ミーン カタ。いなくなりそうだ。現在。会がおわって人が徐々に減っていく場面。
a[ka] ikS pa:=n[na mi:N] kata=tu jataɪ.アカ イき! パーンナ ミーン カタトゥ ヤタい。私が行くころには、いなくなりそうでゾあった。過去。会がおわって人が徐々に減っていく場面
sɪ[ni] mi:N.しニ ミーン。死んで、いなくなった。

４．３　補助動詞mi:N

シテイルには否定形式が二つあるが、その一つがこれとの組み合わせである。もうひとつのuraNとの組み合わせが未実現をあらわしたのに対して、この形式は未経験であることをあらわす。補助動詞mi:NはuraNとは異なり、存在動詞とは組み合わさらない。

さまざまな動詞とこの補助動詞との組み合わせは、ある期間に一度も、あるいはそれまでまったく、その出来事が起こっていないことをあらわす。

unakai] ite:i=[ja] mi:N.ウナカイ イテーイヤ ミーン。長く会ってはいない。
unakai] saki:=pa: [nume:] mi:N.ウナカイ サキーパー ヌメー ミーン。久しく酒を飲んではいない。
kɪnu]=ta:[se: mi:=ja mi:]tatam.きヌターセー ミーヤ ミータタム。きのうまでは見たことはなかった。もう見た。
nnama]=ta:[se: fai=ja mi:]tatam.ンナマターセー ファイヤ ミータタム。いままでは食べたことはなかった。もう食べた。
ju[ke: ffe:] mi:N.ユケー フ!フェー ミーン。雪は降ったことはない。
unu] tuɪ=[a mi:=ja:] mi:N [tuɪ.ウヌ トゥいア ミーヤ ミーン トゥい。この鳥は見たことはない鳥だ。

５．ne:N

５．１　動詞ne:N

動詞ne:Nはものやことの非存在「ない」をあらわす。

umakS=[mai] nau=[mai] ne:N. ウマき!マイ ナウマイ ネーン。火もなにもない。
ara:] pare: [ne:N. アラー パレー ネーン。私は畑はない。
kɪnu=mai] ne:tatam. きヌマイ ネータタム。きのうもなかった。

ne:Nには存在から非存在への変化をあらわす用法がある。

ure:] ata=ta:[sje:] ne:N. ウレー アタターシェー ネーン。これはあしたまではない。いまはあるが、なくなる。
ne:N] kumata. ネーン クマタ。なくなる。予定性
amara]ta=[tu] m:[na] ne:N. アマラタトゥ ムーナ ネーン。あまらずにゾみんななくなった。現在の状態
amarata=tu] m:na ne:]tataɪ. アマラタトゥ ムーナ ネータタい。あまらずにゾみんななくなった。過去の状態

開始限界や終了限界をあらわす～kataのかたちで、変化の終了限界＝非存在への開始限界に近づくことをあらわす。

m[me] ne:N] kata. ンメ ネーン カタ。もうなくなる。ものがなくなりそうだ。

存在動詞uɪとaɪにはこの～kataとの組み合わせがみられないが、ne:Nにはある。このことからne:Nは意味的にも存在動詞以上に動詞的であるといえる。ne:Nには存在動詞にみられる、aɪやukɪなどの補助動詞と組み合わさる用法はみられないが、それはこの方言の動詞の否定形がそうであるのと同様である。

ne:Nにはまた、つぎに取りあげる動詞との組み合わせであっても、「食べてしまった」という完了的な用法ではなく、「食べて、その結果、現在なくなっている」という本動詞的な使用がみられる。この用法を介して補助動詞の用法[3]に連続している。

[3] ne:Nの補助動詞の用法に関しては、宮古語伊良部島方言のnjaanについて下地（2018）が消失結果相と位置づけ詳細に分析している。大神方言でのより詳細な考察については稿をあらためたい。

fai] ne:N. ファイ ネーン。食べて、なくなっている。現在
fi:=tu] ne:N. あげてしまってゾ、もうない。現在
ure: ata]=ta:[se:] mme [vvai] ne:N. ウレー アタターセー ンメ ッヴァイ ネーン。これはあしたまでは、もう売られて、なくなる。未来
m:na=tu] kai] ne:tataɹ. ムーナトゥ カイ ネータタい。みんなゾ買って、なくなっていた。店の商品が。過去

５．２　補助動詞ne:N

ne:Nはアスペクトに関わる補助動詞としても使用される。動作動詞との組み合わせではその動作がおわりまでおこなわれることをあらわし、変化動詞との組み合わせではその変化が完了することをあらわす。存在動詞とは組み合わさらない。

既出の動詞と補助動詞mi:N、araNとの組み合わせがあらわす否定形には対立する肯定の形式が存在し、そのために動詞にはとりたて助辞jaの接辞づけがほぼ義務的であるが、こちらは、非存在という否定的な意味を出発点としながらも、ある形式の否定形ではないので、その制限はない。

また、動詞の希望形容詞と形容詞の否定形に補助動詞としても使用される。こちらは肯定に対立する否定なのでとりたて助辞jaが基本的にあらわれる。

５．２．１　動詞＋補助動詞ne:N

動作や変化が終了し、そのあとの状態にあることをあらわす。補助動詞の非過去形が使用されたばあい、発話時にその状態であることをあらわすが、共通語では過去に訳される。

taru=Nkai=mai] ssasata=[tu] s[ti] ne:N. タルンカイマイ ス!ササタトゥ ス!ティ ネーン。だれにも知らせないでゾ、捨ててしまった。
macikai=tu kiri] ne:N. マチカイトゥ キリ ネーン。間違ってゾ、蹴ってしまった。
pi:maka:] numis!iti:=[tu pi:] ne:N. ピーマカー ヌミシ!ティートゥ ピー ネーン。少し飲んでゾ、酔ってしまった。
ka[ti=nu] fki=[tu] ki:=[nu] naɹ=[a] m:[na] uti peri] ne:N. カティヌ フ!キトゥ キーヌ ナいアムーナ ウティ ペリ ネーン。風が吹いてゾ、木の実がみんな落ち去ってしまった。
nivpsami] ne:tatam. ネィヴプ!サミ ネータタム。寝坊しちゃった。過去

動作の開始限界に注目し、そのあとの持続状態をあらわすことがある。つぎの例は、終了後の状態でも同様に使用することができる。

ame: ffi] ne:N.アメー フ!フィ ネーン。雨は降っちゃった。雨模様だったが、降りはじめて、いま降っている。（降りおわって雨があがった状態の意味にも使用される。）

５．２．２　希望形容詞＋補助動詞ne:N

希望形容詞の否定形は中止形=jaとりたて形に補助動詞ne:Nを組み合わせる。

ki:=[ja] na[uffa] ne:ta=[tu] nu[mpuffa] ne:N.キーヤ ナウッファ ネータトゥ ヌムプッファ ネーン。きょうはなぜかゾ飲みたくない。
a[ra:] ki:=[ja i]kSpuffa ne:N.アラー キーヤ イき!プッファ ネーン。私はきょうは行きたくない。
numpuffa ne:]tatam.ヌムプッファ ネータタム。飲みたくなかった。
kɪ[nu:] ikS[puffa] ne:tatam.きヌー イき!プッファ ネータタム。きのうは行きたくなかった。

５．２．３　形容詞＋補助動詞ne:N

形容詞の否定形は中止形=jaとりたて形に補助動詞ne:Nを組み合わせる。

uma]ta:[se:] ute:ffa] ne:N.ウマターセー ウテーッファ ネーン。ここまでは遠くはない。地図を見ながら。
a[ra:] uri:=[pa:] mma[ffa] ne:N.アラー ウリーパー ンマッファ ネーン。私はこれをおいしくはない。
a[kaffa] ne:tatam.アカッファ ネータタム。赤くはなかった。
unu si]mukS[sa] umus!if[fa] ne:]tatam.ウヌ シムき!サ ウムシ!ッファ ネータタム。この本はおもしろくはなかった。

６．araN

６．１　応答詞（感動詞）

araNは単独では否定の意味をあらわす応答詞（感動詞）として使用される。相手からの肯否質問文に対して、それを否定する文の文頭におかれることが多い。

unu ka:ssa mmaka]m? ＞ a[raN mmaffa] ne:N.ウヌ カーッサ ンマカム？＞アラン ンマッファ ネーン。そのお菓子はおいしい？ ＞ いや、おいしくはない。
kamaN]=tu [fai k!isi? ＞ a[raN] fai=[ja] ku:tataɪ.カマントゥ ファイ キ!シ？＞アランファイヤ クータタい。あそこでゾ食べてきた？ ＞ いや、食べてはこなかった。

６．２　コピュラ

araNは名詞述語文（や、これに準ずる形容詞述語文）を否定文にするさいにコピュラとして使用される。

u[re: vva=ka bo:sje: araN=na]? ウレー ッヴァカ ボーシェー アランナ？　これはあなたの帽子じゃない？
pari=ki] muna: araN.パリキ ムナー アラン。晴れそうじゃない。晴れそうにない。
v[va=mai] aN=mai [ikS kumata ara]N.ッヴァマイ アンマイ イき! クマタ アラン。あなたも私も行くことになっていない。
uma: [ute:] aratatam.ウマー ウテー アラタタム。ここは遠くなかった。
ure:] takatai=[ja] ara]tatam.ウレー タカタイヤ アラタタム。これは高くはなかった。値段が。

７．uskɪ／ukɪ

「おく」は、「置く」の意味の動詞はuskɪ、アスペクトにかかわる補助動詞はukɪ/ukSで、語形がことなる。

７．１　動詞uskɪ

動作動詞「置く」はとりつけの意味をあらわす。

ikS=mai] uma=N=tu uskɪ.イき!マイ ウマントゥ ウス!き。いつもここにゾ置く。
kama=N=tu] uski.カマントゥ ウス!キ。あそこにゾ置いた。
u[ma]=N us[ki] uri.ウマン ウス!キ ウリ。ここに置いていろ。
kama=N=tu] us]ke:ɪ.カマントゥ ウス!ケーい。あそこにゾ置いてある。＜uski aɪ
kFfis!iti:] u[ma=N] uski:ki.ク!フィシ!ティー ウマン ウス!キーキ。作ってここに置いておけ。＜uski uki

７．２　補助動詞ukɪ

動詞と補助動詞ukɪの肯定形は、準備ができた状態にすることや、放置することをあらわす。

kai] ukati.カイ ウカティ。買っておく。意志。
u[ma=Nkai] jaNki:ki.ウマンカイ ヤンキーキ。そこに投げておけ。玄関に新聞を持ってきた人に。＜jaNki uki
a[Nsi] ske:rasi uki.アンシ ス!ケーラシ ウキ。そのまま散らかしておけ。

動詞と補助動詞uk1の否定形は、動作がまだおこっていない（おこっていなかった）ことをあらわす。継続相の動詞＋u1の否定形とおなじような意味になる。否定では動詞がjaとりたて形になって融合するので、そこからさらにuk1が融合することはない。

m[mita] purea ukaN. ンミタ プレア ウカン。まだ掘ってはいない。
satare:] mmi[ta k!isje:] ukatatam. サタレー ンミタ キ!シェー ウカタタム。さっきはまだ来てはいなかった。かれは。

継続相の動詞＋u1とはことなり、自然現象をあらわすことはできない。
*ffe: ukaN. フ!フェー ウカン。降ってはいない。（非文）
ffe:] uraN. フ!フェー ウラン。降ってはいない。いまはまだ。

この形式は動作などの痕跡があることをあらわすことがある。補助動詞a1との組み合わせもおなじ痕跡の意味で使用され、現在ではむしろそちらのほうが多用されるようだが、もともとuk1のほうがより大神方言的だという意識が複数の話者にある。

taukara:=ka=tu numi] uk1. タウカラーカトゥ ヌミ ウき。だれかがゾ飲んである。コップを見て。
taukara:=ka=tu ap]pi:k1. タウカラーカトゥ アッピーき。だれかが遊んである。散らかったおもちゃを見て。＜appi uk1
unakai] saki:=pa: [nume:] ukaN. ウナカイ サキーパー ヌメー ウカン。久しく酒を飲んでいない。前回見たときから減っていない相手の酒瓶を見ながら。（「飲んだ痕跡がない」という痕跡か）

補助動詞a1との組み合わせ同様に、述語や条件節に使用されて反実仮想をあらわす。

uma=N] ati[ka: fai=tu u]k1. ウマン アティカー ファイトゥ ウき。ここにあったら食べてゾいた（はずである）。述語
kai k!isi]:ka:. カイ キ!シーカー。買ってきておけば（よかった）。条件節 ＜k!isi uka:

反実仮想の用法ではこの形式にさらにa1が融合することがある。次の例では条件節も主節もともにこの形式で、述語にさらにa1が融合している。

uma=N] ari:[ka: fai=tu] uke:1. ウマン アリーカー ファイトゥ ウケーい。ここにあったら食

べてゾいた（はずである）。<ari uka:、fai=tu uki aɪ

８．asɪ／sɪ

「する」は、動詞はasɪ[4]、補助動詞はsɪで語形がことなる。動詞asɪが語彙的に積極的な意味がないのと同様に、補助動詞sɪにも文法的に積極的な意味はないようである。

８．１　動詞asɪ

具体的な語彙的意味のない「する」の意味である。

aN=[mai] aNsi=tu asɪ.アンマイ アンシトゥ アし。私もそうゾする。
pikitum=kara=[tu] asi.ピキトゥムカラトゥ アシ。男からゾした。男から先に。
a[ra:] asiN.アラー アシン。私はしていない。
a[ra:] asite:N.アラー アシテーン。私はしない。意志

代用の意味の「ＡをＢにする」ではＢも対格をとるほうが基本的である。

u[ri:=pa:] usai=[ju] asɪmiti.ウリーパー ウサイユ アしミティ。これをつまみにしよう。意志「つまみをしよう」対格
a[si:] asi fa:.アシー アシ ファー。昼にして食べよう。残り物を昼食代わりに。勧誘「昼をして」対格
a[si=N] asi [fa:.アシン アシ ファー。昼にして食べよう。昼食代わりに。与格

asɪの中止形がハダカ名詞Ｂとともに対格的（意味は与格的）にはたらくことがある。本動詞が補助的にはたらくことで、複合格的な様相をみせている。

u[ri:] sara a[si] assu.ウリー サラ アシ アッス。これを皿（代わり）にしろ。皿＋シテ＋しろ
uri:] dai a[si] assu.ウリー ダイ アシ アッス。これを台（代わり）にしろ。台＋シテ＋しろ

---

[4] 動詞と補助動詞の語形の違いをどう考えるかであるが、Kaneda & Holda（2018）の発表でも若干ふれたように、上代以前の日本語における（存在動詞アリ/アルに対する）行為動詞アシ/アスの存在の可能性については、今後も検討していきたい。なお、このことと、７でとりあげたuskɪ／ukɪにおける相違とは別の問題と考える。

８．２　補助動詞s1

動詞に強調辞tuがつけられると分析的になって動詞からs1が分離される。この補助動詞の語形にはこれまでのところ非過去形s1と過去形sta1のみが確認されている。また、補助動詞の否定形siNは形容詞との組み合わせにのみ使用され、動詞の否定にはこの補助動詞の否定形ではなく、numaN、numate:N（飲まない）など動詞自体の否定形が使用される。

８．２．１　動詞＋補助動詞s1

動詞のあらわす動作を強調するために動詞に強調辞tuをつけると分析的になってs1が分離され、動詞に強調辞がつく。否定文には補助動詞s1（およびその否定形siNとその活用形）はあらわれないようである。（訳ではゾを省略）

kari=mai] putu1=tu s1.カリマイ プトゥいトゥ し。あいつも踊るよ。未来
unu] a[me:] a[ta=mai] ff=tu s1.ウヌ アメー アタマイ フ!フ!トゥ し。この雨はあしたも降る。未来
mi]:=tu sta1.ミートゥ ス!タい。見た。いま、飛行機が飛んでいるのを。過去
ffi=tu sta1] pe:m.フ!フィトゥ ス!タい ペーム。降ったんじゃないかな。きのうの予報から推測。過去

この組み合わせには限界達成（直前）の用法がある。非過去形では上のふつうの用法との違いがわかりにくいが、過去形ではその違いが明確である。

kare:] mme jakati [nas]=tu s1.カレー ンメ ヤカティ ナス!トゥ し。あの人はもうすぐ生む。未来
mme] jaka[ti mi:]=tu s1.ンメ ヤカティ ミートゥ し。もうすぐ見えるようになりそうだ。赤子の目が。未来
ure:] mme ff=tu s1.ウレー ンメ フ!フ!トゥ し。これはもう降りそうだ。雨が。未来
uwa1]=tu sta1.ウワいトゥ ス!タい。終わるところだった。過去
nas]=tu sta1.ナス!トゥ ス!タい。生まれそうだった。きのう見たときはもうすぐ。過去

８．２．２　形容詞＋補助動詞s1

いまのところかぎられた語彙だが、補助動詞s1は形容詞のサ名詞形を用言化－意味的には形容詞化だが、形式的には動詞化－する。mmasa:は形容詞のサ名詞形で、否定文でも同形なので、長音化しているのはjaとりたて形相当とみられる。なお、この例で、対象が対格でも主格でもあらわれるのは、上のような事情によるものとみられる。

unu] fa:=[ja ka:ssu=tu mma]sa: s1.ウヌ ファーヤ カーッストゥ ンマサー し。この子どもはお菓子をゾ好きだ。対格（動詞的使用）
aNta=ka] fa:=[nu] mme: [ka:s1]=nu=[tu] mmasa: s1.アンタカ ファーヌ ンメー カーしヌトゥ ンマサー し。うちの子どもたちはお菓子がゾ好きだ。主格（形容詞的使用）
m[masa: siN.ンマサー シン。好きじゃない。おいしくない。

希望形容詞のサ名詞形にもこの形があり、「～したがる」の意味になる。共通語とは異なり、一人称でも使用できる。

unu] fa:=[ja] ka:ssu=[tu fau]pussa: s1.ウヌ ファーヤ カーッストゥ ファウプッサー し。この子どもはお菓子をゾ食べたがっている。
aN=mai] ka:ssu=[tu fau]pussa: s1.アンマイ カーッストゥ ファウプッサー し。私もお菓子をゾ食べたがっている。食べたい。
fau]pussa: siN.ファウプッサー シン。食べたくない。食べたがらない。

この形はサ名詞形を補助動詞s1で用言化したものなので、これに強調辞tuがつくとさらに補助動詞s1が分離される。

unu] fa:=[ja] ka:ssu=[pa] faupussa: s=tu s1.ウヌ ファーヤ カーッスパ ファウプッサー ス!トゥ し。この子どもはお菓子を食べたがっているゾ。
aN=mai kakS]pussa: s=tu s1.アンマイ カき!プッサー ス!トゥ し。私も書きたがっているゾ。

自然現象にもこの形がある。

ff]pussa: s=tu s1.フ!フ!プッサー ス!トゥ し。降りたがるゾ。雨がやみそうにない。
unu ame:] akaraN.[ffpussa: s1] ami.ウヌ アメー アカラン。フ!フ!プッサー し アミ。この雨は上がらない。降りたがる雨だ。

８．２．３　名詞＋補助動詞s1

代用の意味の「ＡをＢにする」で、本動詞のときはＢが対格をとったが、この意味で補助動詞が使用されると、Ｂはハダカ格になる。名詞の動詞化とみるべきか。

u[ri:] u[sai] s1miti.ウリー ウサイ しミティ。これをつまみ（に）しよう。
u[ri:] fta ssu.ウリー フ!タ ス!ス。これをフタ（に）しろ。

おわりに

存在・非存在をあらわす動詞を中心に、動詞と補助動詞としての意味用法を概観した。とくに否定形では意味の変容やほかの語彙からの参入もあって、肯定否定の関係が複雑である。「する」のふるまいもたいへん興味深い。今後はアスペクト形式の意味記述も深めながら、同義的な形式の意味の相違についても考えていきたい。

本稿は「宮古語大神方言　文法化にかかわって」沖縄言語研究センター定例研究会（2018.12.１）をもとに加筆修正したものである。

本稿における大神方言の用例のすべては、大神島在住の最高齢者である狩俣英吉（かりまたえいきち）氏（1925（T14）年９月25日生）からの聞き取り調査（2013～）による。

本稿の執筆にあたり「国立国語研究所 機関拠点型基幹研究プロジェクト 日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」での調査資料を使用した。

文献等

・金田章宏（2017）「宮古大神島方言　格形式の意味用法」沖縄言語研究センター定例研究会（2017.１.21）
・金田章宏（2018）「沖縄県宮古語大神方言」『文化庁委託事業報告書　平成29年度 危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』琉球大学国際沖縄研究所pp. 153-180
・金田章宏（2019）「宮古語大神方言　動詞と形容詞の活用の概要」『文化庁委託事業報告書 平成30年度 危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』琉球大学島嶼地域科学研究所pp. 130-163
・Kaneda, Akihiro & Holda, Martin（2018）. Hachijo and South Ryukyuan languages and East-Northeast Japan dialects from the viewpoint of the concentric circle theory of dialect divergence（国立国語研究所主催国際シンポジウム「Approaches to Endangered languages in Japan and Northeast Asia: Description, Documentation and Revitalization」（2018.８.６））
・かりまたしげひさ（1993）「沖縄宮古大神方言のフォネーム」『琉球列島における音声の収集と研究Ⅱ』沖縄言語研究センターpp. 148-173
・下地理則（2018）『南琉球宮古語伊良部島方言』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
・Pellard, Thomas（2009）Ogami（Miyako Ryukyuan）. Shimoji, Michinori; Pellard, Thomas. An introduction to Ryukyuan languages, Research Institute for Language and Cultures of Asia and Africa, pp. 113-166